

第6回 富山県河川整備計画検討委員会における主な意見と対応

平成16年8月20日(金)14:30~16:00

項目	発言者	意見	内容	対応
<神通川水系神通川右岸圏域河川整備計画>				
環境	A委員	熊野川ダム再開発について	熊野川ダムの再開発は、水道容量を洪水調整容量に転換して必要な治水安全度を確保するなど、新規ダム建設に比べて環境への影響が少なく、既存ダムの有効活用の観点も含めて河川整備として望ましいあり方である。	本再開発は、経済性に優れ短期間に治水効果を発現できるとともに、自然環境への新たな負荷も少ないことから、効果的な河川整備が実現されるものと考えている。
治水	B委員	いたち川の段階的整備について	段階的整備(計画規模1/20)に整備期間30年かかると言うが、将来計画(計画規模1/50)はいつ頃着手となるのか。	着手の時期については、事業の進捗状況や財政状況をみながら検討してまいりたい。
工事	C委員	いたち川の掘削土処理について	河床掘削に伴い発生するヘドロ等の処理(残土処理)はどうしているのか。	土砂の状況を把握し、他の工事等で利用出来ない汚泥等であれば、産業廃棄物として適正に処理することとしている。
治水	D委員	黒川の河川整備について	熊野川合流点上流で、最近、危険水位まで行った箇所があるが何らかの対応を考えているか。	指摘された箇所については何らかの対応が必要であると考えているが、局所的であるため、今後、県単独事業で対応したい。(河川整備計画は相当規模の改修を対象とする)
管理	D委員	熊野川ダムの点検について	点検時にダム放流を止める関係から、一時的に熊野川に必要な流量が流れないことがあった。対応を検討して欲しい。	ダムの構造上、点検時には水を止めざるを得ないが、今後、点検の実施時期やダム構造の改良について検討してまいりたい。
環境	D委員	熊野川ダムの維持流量について	熊野川の維持流量は0.2m ³ /sだがサクラマス等魚類の生息を考慮すれば0.35m ³ /sは必要でないか。国土交通省では0.3~0.5m ³ /sとしているようだが。	維持流量は、河川幅等の現地測量結果に基づき、サクラマス等魚類の生息に必要な水深が確保されるよう定めたものであるが、今後とも現地の河川状況を調査し、適切な河川管理に努めてまいりたい。
治水	E委員	熊野川ダム再開発費用について	熊野川ダム再開発費用はどのくらいか。	放流口の改良工事のほかに、ダムの水道容量買い取り(補償)も含めて、約80億円である。
管理	F委員	熊野川ダムの堆砂容量について	堆砂が当初想定以上に進んだということだが、今後何年堆砂容量が持つのか。また埋まれば別のダムを造る必要があるのか。	堆砂の増加量を見込んだ上で、今後100年の容量を確保している。また、仮に不足しても水位低下時に掘削等で容量を確保することを考えている。